

「今までにない写真教室」2019年度受講生からの感想

2020.1.31 時点で寄せられた分

【男性①】

興味深く受けさせていただきました。刺激的な内容であり、来年度も受講したいと思っておりますが、重複する内容もあり、野外での撮影やモデルを使ったポートレートなど、新しい内容も織り込んでいただければと思います。

全日写連的なリアリズム写真こそが写真であるという考え方には、以前からずっと疑問をもってきました。

頭の中での整理できない部分が、今回の講座を受けたことによって、ずいぶんスッキリしたように思いました。

今の全日写連の方向性では、必ず近い将来、会員減少により消滅すると考えます。

役員の方々は頭を柔らかくしていただき、多くの方向性を取り入れていただければと思います。

【男性②】

長年写真を撮って来ましたが、高齢になり、これからはコンテストでなく、自分の好きな本当に楽しい写真を撮りたいと考えていました。

そのタイミングで西本先生の教室は共感できることが多く、勉強になりました。

ただ、一気に自分を変えることは出来ないのも、今までの延長線上で身近な被写体に目を向けて写真を撮りたいと思っています。

来年度の教室開催については、個人的に参加出できなかった講座もあり、次回開催されればその回には参加したいと思っています。

ただ、全日写連のメンバーは高齢者が多いので、次回開催しても、あまり多くの参加者は望めないのでは？と思います。

【男性③】

これまでの私の写真は、自然にしる、お祭りにしる、「そこにあるもの」を写してきただけでしたが、西本教室に入り「工夫・創作・演出」を行い、作り上げていく写真の分野を少し覗くことができました。

宿題をやり始めると切りがなく、なかなか思うようにいかず深夜までかかってしまいますが……(笑)

ある回の講義で、レストランが買い取ったという5枚ほどのアート写真をスクリーンで見せていただきました。これまで私たちが見て来た「作品」とは全く異なるものですが、とても素敵な写真でした。これからは作品展にもアートのものが出てきてもおかしくない時代になっていくのかな？

(国際サロンは多少そんな雰囲気があるのかな)

【男性④】

事務局長が西本教室を実施したことについては、全日本写真連盟という旧態依然の人で固まっている中、驚異的なことであり、よく踏み切ったと思います。

ことをなすのに一番の障害は「人」です。過去の亡霊みたいなものが、従来からのことにしがみついている。黙っていればまだしも、口を出す。

どこの世界も同じだろうが、写真という芸術に対して、もっと自由な発想で動いていかななくてはならないのに、そんなことに気が付かない、どうにもならない年寄りの「茹でガエル」現象。

老齢のために写真はもうやめる。確かにそれも事実だが、原因は今までのパターンをそのままやっているから辞めるということになる。要するに指揮を執っている人が老化している。

撮影対象をどんどん拡大していけば、「歳だから」という理由で辞めていく現状に多少なりとも歯止めをかけられるのではないかと思う。

1. 西本教室を受けて感じたこと

- ① 「誰を」「何を」対象にしているか分からない
- ② 目的に至る過程がはっきりしない
- ③ テクニックを教えているのか、考え方を教えているのか分からない

2. 来年度も開催されるとしたら

- ① 自分の写真に行き詰まりを感じている人など、目的意識のはっきりしている人を対象にする。
(会員非会員を問わず)
- ② どういう目的で、どのようなことを講座でやるか明確にするとよい

【女性①】

途中からの受講ですが「今までにない写真教室」のタイトル通り、既成概念や視点を変えて撮ることを教わり、写真撮影が一層面白くなりました。

毎回出される宿題も勉強になりますが、毎月となると負担に感じることも事実です。

宿題は送付したものを冊子にするだけでなく、焼いた写真を見ていただき、講師の感想をいただけると、さらに良いかと思えます。

それから講座の開始時間は不便に感じています。講師のご都合もあろうかと思いますが、午前中または午後1時過ぎからにしていただけると有り難いです。

来年度も講座が実施された場合、新たに受講される方と継続受講者が混在すると内容が重なったりしませんか？途中で退会された方はどんな理由だったのでしょうか。気になるところです。

【女性②】

以前は写真が趣味の夫と、よくカメラを持って出かけていましたが、夫が亡くなってからカメラを使ったことはありませんでした。

スマホで撮った花の写真を Instagram に投稿したりはしていましたが……。

「またカメラ始めてみようかな」「夫が使っていたのは重いし古いから、新しいのを買おうかな」と考えていた時、朝日新聞の「今までにない写真教室」の案内記事が目に入ったのです。迷わず申し込み、ワクワクしながら受講を始めました。

先生の「写真に上手い下手はあっても、良い悪いは無い」という言葉は魅力でした。

毎月出される宿題に「え〜っ、こんなのできるかな?」と思いながらも、いろいろ考えながら撮影していると、時間の立つのも忘れ、夢中になっている自分に驚きました。鏡を使ったり、葉っぱを集めてきたりして撮るのはとても新鮮で楽しかったです。

受講生に、私のようなカメラ初心者はあまりいらっしゃらなくて、私は落ちこぼれ気味でしたが、先生が作ってくださる写真集を見て、どなたの作品も素晴らしく、とても参考になり、刺激を受けました。

常に周りを見て面白い素材がないかと探したり、いろんな角度から物を見たりするようになりました。

スマホで撮ったものと一眼レフで撮ったものと見比べると、スマホで撮った方が良かったりして、自分の技術にガッカリすることも多いのですが、せっかく買ったカメラだから、もう少し技術を身に付けたいと思っています。

でも、外に出かける時は、やはり軽いからスマホがいいかな。スマホにも広角、マクロ、望遠レンズ等もあって、スマホのカメラも侮れません。

先生のお母様の喜美子さんの存在は、私の目標になりました。生涯カメラと共に充実した人生を歩みたいと思っています。

【女性③】

カメラを趣味として 10 年になりましたが、今までに撮影していたものはすべてと言っていいほど、写真という世界の 1 / 3 に相当する記録写真の部類を占めていることに改めて考えさせられました。

何をどのように、頭で考え、工夫して撮って見せることに、その表現方法としての条件などについて基本を学ぶことができ、知識を深めることができました。

芸術というかアートな作品が撮りたいと思っていましたが、これまでと同じジャンルを撮るにしても、異なる角度で見ることができれば、そのような表現に近づけると考えています。どれくらい反映できるか解りませんが……。

宿題は提出の締め切りがあり、正直言って大変でした。出来不出来は別として、自分なりに試行錯誤して取り組むことができたことはプラスになりました。

毎回、宿題で提出した写真がフォトブックになってきましたが、その作品に対して、先生は失敗作と言われたことがありました。ただ、それはそれでどうにすれば良くなるかという、簡単なアドバイスが全く無かったのがとても残念です。

【女性④】

2019 年 7 月号のフォトアサヒに何気なく目を通していたら「目からウロコ!」「新鮮」……という見出しが目に留まり、読むと「5 月から朝日新聞名古屋本社で受講生募集中!」「今までにない写真教室」とのこと。

「えっ！このようなものが……。見落としていた！」と、早速、中部本部に電話して申し込みました。

歳も重ねてきますと出掛けての撮影はほとんどなく、前々からテーブルフォトがやりたいと思っていたので、タイミングよく参加させて頂きました。お友達の女性会員さんに「申し込んだよ！」と言ったら「私も行こうかなあ」と。自分の所属する支部の支部長さんも申し込まれ、3人で出掛けることになりました。

先生の教えは①「カメラ」ではなく「頭」で撮る ②「どこから」ではなく「どう」撮る ③「見た人に思いの伝わる写真」が撮れるよう楽しみながら精進する ことだそうです。

頭のボケ防止には丁度良いのですが、頭が固すぎて困難が続いています。毎回テーマの変わる宿題があり、四苦八苦して苦戦していますが、それも脳のトレーニングにはとても良いと思っています。先生のお話は毎回、聞いたことのない新鮮な内容で、写真をたしなむ者には、目から鱗のヒントがいっぱいです。

「感性」「遊び心」を磨くには、とても役に立つお話です。写真を楽しんで続けるには、本当にいい場だと思います。続けられるところまで楽しみたいと願っております。

【女性⑤】

「カメラは友達」。

カメラメーカーのキャッチフレーズみたいだが、カメラと友達になることで、老いの途上にある自分の人生を間違いなく、より豊かにすることができると思っている。

カメラは、写すことによって、その写真の中に現在の自分を読み取ることができる。きちんとフィードバックしてくれる。きちんと自分と向き合ってくれる。全く得難い友達であるとともに、「自分発見の旅」の友達なのである。

そして今、西本先生の教室に通うことで”楽しい世界の入り口に立ったのかも知れない”と感じている。

そこで、共通の楽しみの中にいる遊び友達に囲まれながら、自分なりの自分磨きができるなんて、何という幸せ。

西本先生、日置様に感謝です。

私がこの教室に通い続けた理由の1つは、初回受講日に、先生が「フォトショップの使い方についてもやる」と言われたことがあって、これはまだ実現していないが、私の是非やりたいことの一つなので、楽しみにしている。

また、宿題を提出できない月もあったが、一度も休まずに受講できたのは、宿題は出せなければ出さなくてもよいという点でした。

何歳になっても気後れせず学ぶ場所があるというのは、本当に幸せなことだと思います。

欲を言うなら年に一度ぐらい、先生の言われる現代アートの写真が飾られている現場を見学したいと思います。

【女性⑥】

是非とも継続をお願いいたします。

その道のプロの方から指導を受けられ、毎回得られるものが違います。

それも難しい内容ではなく、違った角度からの写真の楽しみ方。

都度払いの自由参加方式もありがたかったです。

ただ、開始は正午からではなく、午後1時以降にして頂けると、もっと行きやすくなるのですが……。

よろしくお願いいたします。

【女性⑦】

2年くらい前に東海市の高齢者施設へ先生と喜美子さんがお見えになり、写真展と講演に参加させて頂いておりましたので、この教室の募集に早速、参加させていただきました。

毎回宿題があり、すべて新しいことばかりでした。途中で田中達也さんの写真展もあり、本当に「今までにない写真教室」の意味がわかりました。

地元の教室で写真展があるときは、変わった写真や作れる写真ですので楽しく展示させていただきました。賞のあるコンテストですと、よほどインパクトのある写真でないと、まだまだ古い先生方には難しいかなあと思いました。大変勉強になり有り難うございました。これから発揮出来るようになればと思っています。

【女性⑧】

<良かった点>

全国展開している遊美塾という写真教室で大体どんなことが行われているか、概要がつかめたこと。会議室で行う撮影実習はこうすればいいのかと思いました。

<残念だった点>

宿題の講評がなかったこと。名前は出さなくてもいいので、やはり投影して長所と短所を1点ずつ講評しないと宿題を頑張った意味がないと思います。

以上